

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第60号

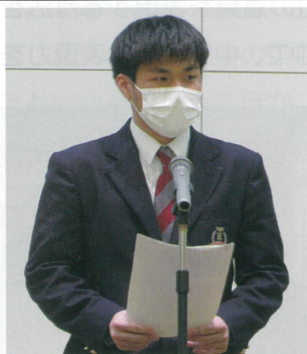
令和4年

3月発行

発行者

広尾町中高一貫教育推進委員会

《中高一貫》 進路講話



高校生から中学生に伝えたいこと

毎年恒例の広尾高校卒業生から広尾中学校の生徒たちへの「中高一貫進路講話」は、新型コロナウイルス感染症流行防止のため例年通りの形式としては中止となってしまいました。そこで高校では、2月1日(火)午後、広尾高校3年生4名が行った講話をビデオ収録し、2月17日(木)に、中学生に放映しました。本記事では、その講話の内容をご紹介します。

進学する今井友希さん(北海道教育大学釧路校)は、過去の楽なほう、楽しいほうに流れてしまう自分を反省する中で、「毎日継続して勉強に取り組むこと、わからないことは他の人の協力を仰ぐことが大事」と訴えました。そして、「人生に役立つ経験作りと一緒にできる小学校教員になりたい」と意気込みを語っていました。

小松紗菜さん(札幌学院大学心理学部)は、障がいのある子どもたちと関わる道をめざし、進学を決めました。小松さんは、入試に向けて努力した自らの経験から、「基礎知識を確実に身に付けること、さらに面接などに対応するために挨拶や敬語などの習慣づけが大事」と話しました。

「小さい頃からお世話になった広尾町に恩返し、恩送りをしたい」と意気込みを語る荒閑里巧くん(広尾町役場)は、部活動や検定・資格取得、継続的な挨拶の実践など、高校生活の中での努力が今につながることを強調しました。

同じく就職する石川心さん(広尾町農業協同組合)は、進路実現に向けて大切なのは、「自分の武器を作ること」と「小さなことでも楽しむ力を身に付けること」と語ります。勉強面で努力するのはもちろんのこと、「履歴書に書ける検定を取得したり、生徒会活動に参加したりすることで、自分を成長させることができる」と訴えました。また、「目の前のできごとを全力で楽しむことで、何事にも前向きに取り組む力を獲得することができる」とも話しました。

高校生からのメッセージをうけて、中学生がさらに充実した学校生活を送ることができるよう願っています。

SCCの記録

SCCとは、Secondary Collaborated Class の略称です。これは、多様な能力や様々な適性を持つ広尾の子どもたち一人ひとりに応じた「きめ細かな学習指導」を通して「基礎・基本の確実な定着」を図っていくために、中学校と高校が連携した合同授業や出前授業、TT、チューター学習などを行うものです。新型コロナウイルス感染症流行の中、感染症対策に工夫を凝らしながら行われた取組をご紹介します。

○国語

国語科では、2回にわたってSCCが実施されました。

①まず12月13日(月)には、広尾高校の岡部哲也教諭が、広尾中学校3年生を対象に授業を行いました。数人が座って会話する写真を見て、コミュニケーションとは何かについて作文をしてもらい、自分の意見を表現する方法を学ぶという内容でした。高校において「表現力を高める」ことが重点目標として掲げられる中で、中学生にも表現力を意識してもらうよい機会となりました。

②12月16日(木)、高校の青木杏佳教諭の指導の下、高校2年生 Academic コース選択者が、広尾中学校1年生に対して古典の魅力を伝えるという授業が実施されました。高校生たちは4グループに分かれ、『伊勢物語』から「芥川」、『枕草子』から「にくきもの」、『沙石集』から「ねずみの婿取り」、『徒然草』から「奥山に猫またといふもの」を選び、それぞれ紙芝居として紹介しました。中学生からは、様々な話を高校生の工夫を凝らした紹介によって知ることができて良かったといった感想が聞かれたほか、高校生にとっても、物語をいかに分かりやすく伝えるかを考えることで、表現力を高める授業となりました。



○数学

12月13日(月)、広尾高校において、高校1年のBasicクラスを対象に、中学校の黒澤賢一教諭による授業が行われました。高校数学の図形を学習していく上で必要な中学数学の図形問題(三平方の定理や三角形の比の問題)の復習することで、知識の定着を図る内容です。中学校での勉強の記憶があやふやな高校生もいましたが、解法を再び思い出して高校でのステップアップにつなげようと、真剣に授業に取り組んでいました。



○社会

①12月8日(水)、広尾高校の千葉康平教諭が、「北海道について学ぶ」と題して、広尾中学校3年生2クラスに対して授業を行いました。北海道の名称について、北方領土についてなど、様々な視点から北海道の歴史を紹介しました。プリント、クイズアプリ、音楽まで導入した千葉教諭の自在な授業に、中学生たちは大いに盛り上がり、積極的に授業に参加していました。



②同じく12月8日(水)、広尾高校の南部玲生教諭が「お金の歴史」と題して、広尾中学校2年生2クラスに対して授業を行いました。南部教諭は個人で所蔵する小判や和同開珎、古代中国やギリシアの貨幣の実物を持参し、お金がどのようにして生まれ、現在の形で使われるようになったのかを解説しました。小判の実物を手にした中学生たちは、「意外と重い」などと語り、歴史の重さに心を動かしていました。



○理科

12月20日(月)、広尾中学校の三宅史人教諭が広尾高校に乗り入れ、広尾高校の関尾岳大教諭、伊藤茜教諭と協力し、高校1年生の「化学基礎」を習熟度別に3展開に分け、化学反応式の量的関係、いわゆる物質質量 mol の計算についての授業を行いました。mol 計算は多くの生徒がつまずいてしまう単元ですが、今回習熟度別に授業を展開できたことにより、多くの生徒が自分の理解度に合った学習をすることができました。



○英語

11月25日(木)、広尾高校の宮田隆教諭、浦田和俊教諭、船越瑠衣教諭が、広尾中学校3年生を対象に Speaking 指導を行いました。英語検定や中高一貫の英語面接を意識し、入退室から会話まで全てを英語で進めるインタビューテスト形式の授業です。中学生たちは英語を話そうと真剣に授業に取り組み、コミュニケーションに積極的な姿勢で臨んでおり、高校の先生たちは高く評価していました。



○保健体育

12月17日(金)3・4校時、広尾高校体育館において、広尾中学校2年生と、高校3年生の科目「生涯スポーツ」選択者の合同授業が2時間にわたって行われました。鉄棒・マットを用いた器械運動の授業で、高校生が中学生に様々な技術を教えました。中学生たちの中には逆上がりや倒立など今までできなかった技が成功したという声もあったほか、高校生たちは例年以上に中学生と積極的にコミュニケーションをとることで、教えることの難しさ、楽しさを学ぶことができました。



※その他、2月下旬から3月にかけて、理科、家庭科、書道でSCCの実施が予定されています。

中高連携 生徒の活動から

中高広域合同清掃活動 10月6日(水)

この日の午後2時間にわたって、中高広域合同清掃活動が行われました。中学生と高校生が協力して町内清掃をすることで、一体感を高め合おうという取り組みです。中学生と高校生の混合チームが11チーム結成され、市街地や楽古川河口流域などを手分けして清掃しました。

広尾高校の厚生常任委員長加納亜紀さん(2年)は、「中学生とコミュニケーションをとりながら、広尾町をきれいにすることに貢献できてよかった。大きいゴミはないが小さいゴミがたくさんあったので、ゴミゼロのきれいな町をめざし、中高生の意識を高めていきたい」と話していました。



中高生徒会交流 11月17日(水) & 12月2日(木)

今年も広尾中学校と広尾高校の生徒会交流が行われました。この交流会は、第1回でお互いの生徒会実践を知って、中高が一緒に解決に向かうことができるような課題や改善点を明らかにし、第2回ではその解決策について討議するものです。交流の結果、生徒会が積極的に情報発信を行うことを共通課題とし、生徒会通信の発行回数増や放送の積極的な活用、生徒の意見の積極的な収集などが提案され、今後実施されていく運びとなりました。



広尾高校生徒会長二本柳騰磨さん(2年)は、「中学生が話をしやすいように聴く姿勢に気がつけました。難しい題材についての議論でしたが、情報発信をさらに積極的に行っていきたいと思います。」と話しました。また、同校書記次長の窪田有利さん(2年)は、「中学校のほうが、情報発信についてラジオなど先に色々実践していて、生徒会交流は学ぶことが多かった。中学生としっかり交流できて、とても楽しかった。ぜひまた実施してほしい。」と語っていました。

令和3年度 北海道広尾高等学校 3学年の進路状況

令和4年2月18日現在 3年生在籍 男子:21名 女子:18名 計:39名

＜就職志望者 14名＞ 決定者数：男子9名 女子5名 計 14名

進路区分	希望者数			決定者数			内 定 先
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
就職町内	6	2	4	7	3	4	広尾町国民健康保険病院 十勝海運 奥谷建設 広尾町農業協同組合 なかの歯科医院 とかち 飼料
就職管内	1	1	0	1	1	0	エイムカンパニー
就職道内	1	1	0	1	1	0	北海道畜産公社
就職道外	0	0	0	0	0	0	
公務員	6	5	1	5	4	1	広尾町役場、海上自衛隊一般曹候補生
自営・その他	0	0	0	0	0	0	
就職者合計	14	9	5	14	9	5	就職希望者割合 35.9% 決定率 100%

＜進学志望者 25名＞ 決定者数：男子11名 女子12名 計 23名

進路区分	希望者数			決定者数			決 定 先
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
4大国公立(文系)	1	0	1	1	0	1	北海道教育大釧路校
4大国公立(理系)	2	1	1	0	0	0	
4大私立(文系)	4	2	2	4	2	2	札幌学院大学 北翔大学 東海大学 札幌大学
4大私立(理系)	2	1	1	2	1	1	北海道医療大学 福山大学
短大国公立	0	0	0	0	0	0	
短大私立	1	0	1	1	0	1	札幌国際大学短期大学部
看護学校	2	0	2	2	0	2	釧路労災看護専門学校 社会事業協会帯広看護専門学校
専門・専修学校	13	8	5	13	8	5	札幌青葉鍼灸柔整 北海道美容 札幌医療リハ ビリ 札幌医療秘書福祉 札幌医学技術福祉 歯科(2名) 北海道情報 日本工学院北海道 北 海道理容美容 吉田学園医療歯科 北海道歯科 衛生士 京都外国語 帯広高等技術専門学院
進学者合計	25	12	13	23	11	12	進学希望者割合 64.1% 決定率 92%

＜全 体＞

	在籍者数			決定者数			進路決定率
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
合 計	39	21	18	37	20	17	94.8% (昨年度 97.4%)

【編集後記】

「中高一貫教育だより」は、新型コロナウイルス感染症等に伴う行事縮小の影響もあって、昨年度から年2回の発行となっています。しかし本号でも、授業の様子や中高連携生徒会活動の様子を通じて、学校生活を元気に過ごしている生徒たちの様子をお伝えすることができました。今後も中高一貫教育の取組が町民の皆様にご理解頂けますよう、教員一同一丸となって活動してまいります。次号以降も「中高一貫教育だより」をご愛読くださいますよう、宜しくお願いいたします。